

お陰様

物の陰って、何があっても見えないですよ。それと同じで、私たちが生きていく中で、見えないけれど私に働いて下さっているものがあるんじゃないでしょうか？人と人との縁もそうでしょう。私の口を通っていった、沢山の命もそうでしょう。そればかりか、どこか遠く、私に関わりもないような場所で生きている命が、私と関わりを持っているかもしれません。見える見えないにかかわらず、私たちは沢山の関わりの中で生かされています。そのことを「お陰様」という言葉に集約して感謝させて頂いているのではないのでしょうか。

お下がり

子供の頃親によく言われた言葉があります。「お寺の者は、阿弥陀様のお下がりをいただいているのだから、たとえお菓子一つでも、阿弥陀様にお上げしてからいただかなくてはいけない」と。

でも、最近のお寺の風潮を見ると、それを忘れてしまっているように思えます。寺の物は自分の物、と思っているような思い上がった僧侶のなんと多いことか…

非常に残念なことです。とは言いながら、私も自分の子供に「お下がりをいただいている」と教えてきたかという、非常に心許ないのですが…

それでも、私たち僧侶が、「阿弥陀様のお下がりをいただく」という心を忘れてしまったら、ご門徒に阿弥陀様をどう伝えるのでしょうか？もう一度、「お下がりをいただく」という言葉を思い出し、そして伝えていきたいものです。